



創立八十周年(昭和三十九年)の記念事業の一環として、待望の寄宿舍「千畳原寮」が学校正門近くに建設されました。

本校に憧れて部活動(硬式野球部)で活躍する生徒のためにも、遠隔地からの通学生のために学生寮が必要とされ正門前の斜面地で当時の財団法人下関商業学校教育後援会の所有地の367・9㎡を整地して、補強コンクリートブロック造りの二階建てとして建築されました。前述したように以前は、下関商業学校教育後援会の所有でしたが、平成二十五年の法人移行申請時で現在の一般社団法人下商同窓会へと変わりました。

建築面積は、145・2㎡で施工期間は、昭和三十九年四月から

九月までで、建築費用は、当時の金額で約六百五十万円で、硬式野球部が昭和三十八年春に全園制覇した際の浄財などで賄われました。

一階は、玄関、食堂・厨房、風呂場、洗濯室・便所等で、二階が二人部屋で十部屋とベランダとなっています。当初は、三階建として四十名収容を予定していましたが、予算等の関係で二階構造のまま今日に至ります。

竣工式は、十二月十九日に学校で行われ、市教委・PTA・同窓会・下商野球部後援会・下商クラブ・工事担当者と学校教職員の参加で行われました。因みに、昨年の夏に大幅な内部の改装工事と外部の塗装工事さらには、崖側の土留め工事を終えて綺麗で安全な

状態が保てるようになりました。経年劣化の影響で随分傷んでいましたが関係者の尽力で見違えるようになりました。また、「下商千畳原寮」の表記も道路側に見易いように行われ環境的には見違えるようになりました。

当初の寮の運営は、運営委員会(管理職と教諭の代表者で構成)で行われ、日頃の食事や生活全般に関しては、当時の用務員(森岡善三郎・貞子夫妻)が昭和六十年三月末まで担当され、昭和四十年四月二十五日から寮の活動が開始されました。参考までに舎監は、昭和六十年までは森岡夫妻、平成二十年までは角縁清美氏(昭和三十四年卒)、平成二十五年までは川端殿氏(昭和六十年卒)以降は、野球部関係者で担当されておられます。

現在の登記上の所有者は一般社団法人下商同窓会ですが、実際の運営は、野球関係者(下商野球部後援会・下商クラブ・硬式野球部)の関係者でされており、寮生活での生徒指導面(寝泊り)は、

野球部関係の先生方中心で行われています。野球部の生徒には良い環境が整備されており、規律正しい生活で仲間と切磋琢磨し、寮生活が素晴らしい思い出となりますように願っています。

